学校番号	3005

令和８年度　工業科（建築科）

教科	工業	科目	生産工学	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	学校作成教材、748「建築構造設計」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

前期は木造住宅の建築生産の一連の過程について学習し、後期は木造住宅の構造計算、積算といった計算が中心の学習となります。
単に計算するのではなく、人々の安全な暮らしを守るために建築物は安全でなければならないということを踏まえ、「課題を理解する」→「結果を予想する」→「結果を求める」→「課題を解決する」ための授業を行います。
同じ系列授業の「建設技術」や「施工技術」と関連づけて学習するように心がけてください。

2　学習の到達目標

・木造建築物の構造計算、積算について理解し、木構造の建築生産に必要な知識・技術を身につける。
・木造建築物の図面を読み取って構造計算・積算をするため、必要な材料を思考・判断できる
・建築生産に関心を持ち、同じ系列授業の「建設技術」や「施工技術」と関連づけて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	建築生産に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、建築物の安全性について現代社会におけるその意義や役割を理解している。	建築生産に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	建築生産に関する課題について関心を持ち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じてそれぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4 ～ 7 月	木構造の基礎	・基礎 ・木材 ・接合 ・骨組み ・外部仕上げ ・内部仕上げ	a:建築生産について現代社会におけるその意義や役割を理解している。 b:建築生産の一連の作業を分析し、施工手順を適切に判断できる。 c:建築生産について関心をもち、主体的に学ぼうとしている。	定期考査 演習課題	演習課題	学習状況の観察 演習課題
8 ～ 11 月	木構造の構造計算	・構造計画 ・壁量設計 ・接合部の設計 ・基礎の設計	a:木構造の構造計算を理解し、現代社会におけるその意義や役割を理解している。 b:木構造の構造計算の種類および求め方について適切に判断できる。 c:木構造の構造計算に関心を持ち、主体的に考察しようとしている。	定期考査 演習課題	演習課題	学習状況の観察 演習課題
12 ～ 2 月	木構造の積算	・概算積算・明細積算 ・土工事・地業工事 ・躯体工事	a:建築積算に対して安全かつ経済的に部材を設計する知識を身につけている。 b:建築積算の種類および求め方について適切に判断できる。 c:建築積算に関心を持ち、主体的に考察しようとしている。	定期考査 演習課題	演習課題	学習状況の観察 演習課題

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度